

令和 3 年度 福岡市立 [城南小] 学校 学校評価実施状況(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
<p>○めざす学校像 ・明るく活気に満ちた学校 ・地域・保護者に信頼される学校</p> <p>○めざす子ども像 ・仲良く、助け合う子ども ・よく考え、学び合う子ども ・たくましい心と体をもった子ども</p> <p>○めざす教員像 ・人間性豊かで、協調性を備え、「チーム城南」を支える教員 ・教育専門職として指導力を身につけ、教育愛に燃える教員</p>		<p>確かな学力の定着と向上</p> <p>豊かな人間性・社会性の涵養</p> <p>信頼される学校づくりの推進</p>	<p>・問題解決力や思考力、表現力等を身に付けさせることにより、主体的・対話的で深い学びを充実させる。</p> <p>・学年・学級を分割した少人数指導やTTによるきめ細やかな指導に力を入れ、算数を中心とした学力の二極化を解消する。</p> <p>・家庭と連携して家庭学習の充実を図るとともに、進んで自学や読書に取り組む子どもを育てる。</p> <p>・進んで挨拶し、相手の立場を思いやる言葉遣いができる子どもを育てる。</p> <p>・Q-Uアンケートやいじめアンケートなどを実施することにより、いじめのない一人ひとりの居場所がある学校集団づくりを行う。</p> <p>・不登校(傾向)児童の解消に向けて、一人ひとりの児童の特性を十分に把握するとともに、SCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。</p> <p>・学校から発行するたよりや学校ホームページ、メール配信等を通して、学校からの情報や子どもの活動の様子についての情報を積極的に発信する。</p> <p>・学校とPTA、地域の行事の融合を図り、共育創造に努める。</p> <p>・家庭訪問や面談などを通して、保護者と日常的な連携を図る。</p>
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
<p>確かな学力の定着と向上を図る。</p>	<p>・「めあて」と「まとめ」を明確に位置付け、一人ひとりの子どもが見通しをもって生き生きと学ぶ授業づくりを行う。</p> <p>・自分の考えをもたせるための書く活動、考えを深めるための話し合う活動を効果的に位置付ける。</p> <p>・算数における重点単元を設定し、学級担任と専科教員が連携しながら、少人数指導に重点的に取り組む。</p> <p>・ICT(学年教職員のGoogleクラスルーム等)を活用して教材や資料を学年で共有して、学習の質の向上を図る。</p>	<p>・「めあて」と「まとめ」の位置付けについては、100%の教職員が「よくできた」と答えており、今後さらに見方・考え方を働かせることができるように、まとめの仕方を充実させていく。</p> <p>・社会科や生活科、生活単元学習を中心として、いろいろな教科等で書く、話し合う活動に力を入れて取り組んできた。今年度は動機付け、追究、話し合いの3つの場面から研究授業を進めてきた。</p> <p>・5・6年生算数における重点単元を設定して、分割による少人数指導に取り組んできた。算数の単元末のテストにおいて、6年生は80点以上の児童が約8割で一定の成果が見られた。</p> <p>・ICT推進リーダーや主幹教諭の働きかけや研修により、1人1台端末の活用が進み、教材や資料の学年共有が図られた。</p>	
<p>豊かな人間性・社会性を身に付けさせる指導の充実を図る。</p>	<p>・特別活動部と生徒指導部の連携により、児童会を中心とした「あいさつ運動」などの自主的な取組を計画的に推進する。</p> <p>・定期的に各種アンケートを実施することにより、児童の学校生活の状況を把握し、組織的な改善の取組を行う。</p> <p>・不登校傾向児童の改善・復帰に向けてSCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。</p>	<p>・日常的に気持ちのよい挨拶をするよう指導している。2学期以降、児童会による「あいさつ運動」が始まってからは、児童の挨拶への意欲が高まってきた。また、2年生が生活科の学習で自主的に「あいさつ運動」に取り組み、全校に挨拶の輪を広げることができた。</p> <p>・Q-Uアンケートや「困っていること」「明るい学校をめざして」等のアンケート、一斉面談などを通して、児童の学校生活の状況を把握し、改善の取組を行ってきた。</p> <p>・担任、養護教諭、管理職が連携しながら、児童の欠席や遅刻の状況を毎日把握し、個に応じた支援を行ってきた。SCやSSW、関係諸機関とも日常的に連携し、組織的な支援を行ってきた。</p>	
<p>信頼される学校づくりの推進を図る。</p>	<p>・学校ホームページや各種たよりを活用することにより、学校としての考えや子どもの状況等を積極的に発信する。</p> <p>・家庭訪問や面談、電話連絡などを行い、保護者と日常的な連携を図っていく。</p> <p>・保護者アンケートを実施することにより、ニーズを把握しながら取組の推進に活かしていく。</p>	<p>・学校ホームページにより、児童の学校生活の様子を定期的にお知らせしている。また、学校からの情報発信もホームページやメール配信、各種たよりを通して積極的に行っている。</p> <p>・案件や連絡内容に応じて、連絡帳、電話、学校面談、家庭訪問などの手段を選択し、保護者と日常的にコミュニケーションを図ることができるよう努めてきた。</p> <p>・今年度は学校の諸行事についてのアンケートを実施することがほとんどできなかった。3学期に実施した「保護者による学校評価」等のアンケート結果をもとに、今後の取組の改善に努めていく。</p>	
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
<p>○「めあて」と「まとめ」を明確にすることは、子どもにその単元で学ぶ内容を理解させることであり、学習意欲の向上に繋がる。このことについて教職員は「よくできた」と答えており、授業の充実が伺える。また、教科によっては話し合い活動の強化に努めており、能動的な学習態度の育成も図られている。</p> <p>○児童会や学習活動を通して、子どもの「あいさつ運動」の自主的な取り組みを促しており、主体的かつ積極的な「あいさつ運動」の広がりが期待できる。</p> <p>○信頼される学校づくりは保護者の信頼が基本であり、それを築くためには学校の情報公開とコミュニケーションが重要であるが、適切に取り組まれている。</p>			